

## 2012年度地質の日イベント企画 in BETSUKAI 実施報告

### An implementation report of "the 2012 Geology Day event in BETSUKAI of eastern Hokkaido"

重野 聖之<sup>1\*</sup>, 在田 一則<sup>2</sup>, 石井 正之<sup>3</sup>, 中川 充<sup>4</sup>, 池田 保夫<sup>5</sup>, 石渡 一人<sup>6</sup>, 七山 太<sup>7</sup>, 青山 拳司<sup>5</sup>, 藤岡 遼<sup>5</sup>, 小林 知幸<sup>5</sup>  
Kiyoyuki Shigeno<sup>1\*</sup>, Kazunori Arita<sup>2</sup>, Masayuki Ishii<sup>3</sup>, Mitsuru Nakagawa<sup>4</sup>, Yasuo Ikeda<sup>5</sup>, Kazuto Ishiwata<sup>6</sup>, Futoshi Nanayama<sup>7</sup>,  
Kenji Aoyama<sup>5</sup>, Ryo Fujioka<sup>5</sup>, Tomoyuki Kobayashi<sup>5</sup>

<sup>1</sup> 茨城大学大学院理工学研究科/明治コンサルタント(株), <sup>2</sup> 北海道大学総合博物館, <sup>3</sup> 北海道地質調査業協会, <sup>4</sup> 産業技術総合研究所北海道センター, <sup>5</sup> 北海道教育大学釧路校, <sup>6</sup> 別海町郷土資料館, <sup>7</sup> 産業技術総合研究所地質情報研究部門  
<sup>1</sup>Ibaraki Univ., Meiji Consultant Co., Ltd, <sup>2</sup>Hokkaido University Museum, <sup>3</sup>Hokkaido Geological Survey Association, <sup>4</sup>Geological Survey of Japan, AIST Hokkaido, <sup>5</sup>Hokkaido University of Education at Kushiro, <sup>6</sup>Betsukai Town Local Museum, <sup>7</sup>Geological Survey of Japan, AIST

風蓮湖は、根室半島の基部に位置し、根室市及び別海町にまたがる海跡湖で日本では珍しいバリアーシステムが認められる。2012年10月下旬～11月上旬、私達は400～500年間隔の千島海溝の地震テクトニクスによって規定され発達してきたであろう風蓮湖バリアーシステムを解明する目的で、科研費(課題23540539)を用いて、調査を実施した。これにあわせて、別海町民を対象に自分たちの暮らす別海町の台地はどのように形成されたのか?をあらためて認識し直してもらうことを目的として、2012年11月3～4日に2012年度地質の日普及行事 in BETSUKAI ならびに根室市ガッカラ浜での巨大津波堆積物剥ぎ取り作成作業を実施した。この行事は前年度に白糠町で行われた「パシクル沼に潜む巨大津波痕跡と化石カキ礁の秘密」に続くもので、今年度は別海町郷土資料館に主催をお願いした。

11月3日午前10時～12時には、郷土資料館で普及講演会が行われた。講演会には別海町民を主体に26名が参加し、「根釧台地の生い立ち」、「別海周辺の大地の恵みー温泉について」及び「風蓮湖周辺の海岸地形とそれから読み取れる地殻変動」と題する3件の普及講演会を在田、中川、七山が行った。昼食後、別海町と周辺地域から約23人が参加して、根室市ガッカラ浜のジオツアーを行い、そこに見られる巨大津波痕跡の観察・解説とともに、巨大津波堆積物の剥ぎ取り作成作業に参加していただいた。

ガッカラ浜には小規模な沿岸湿地が存在し、海蝕崖が連続して存在する。この侵食露頭には過去4000年間の泥炭層中に6枚の火山灰層と12枚の巨大津波の痕跡の可能性がある砂層を確認することができる。ジオツアーに参加された皆さんは、露頭の地層が津波による拳大の礫とともに強力な接着剤で剥ぎ取られることに驚嘆し、泥炭堆積物の間に見られる過去の巨大津波堆積物や道東の摩周火山、道南の樽前火山、駒ヶ岳火山や北朝鮮の白頭山から飛んできた火山灰の層に興味津々の様子であった。この地域が遠い過去から何度も津波に襲われたことを実感されたようであった。ジオツアーには地元の釧路新聞や毎日新聞の取材もあり、翌朝のNHKの道内版ニュースで放映された。

今回のイベント企画終了後には、参加者から企画に関する感想をご回答頂き、以下のような成果や課題が見えてきた。成果としては、「地形の大きな変化を感じ、さらに地層から過去数千年の大規模なイベントを読み解くことで、未来をおおよそ予測できることにとっても興味を持った」、「津波の痕跡をこの目で見られたのは、かなり衝撃でした」、「地元の温泉も意外とすごい温泉なんだあ」などの声があり、あらためて参加者には日頃見慣れた地元の自然を認識し直してもらうことが出来た。さらに、「次回も開催して欲しい」、「今後、教職に就いた際は今回のことを生かすことのできる先生になりたい」など主催者側にとって大変喜ばしいコメントも多くあった。一方、課題としては「素人には専門用語が多く難しい所もあり、もう少し解説がほしかった」、「現地の説明で聞き逃した」など意見があったことから、次回の改善点として参考としたい。

なお、(財)日本科学協会、平成24年度笹川科学研究助成(実践研究部門)により行った津波堆積物剥ぎ取り作業では13セットの剥ぎ取り資料を採取し、道内の博物館・大学など計10カ所の教育機関に贈呈した。

キーワード: 地質の日, ジオツアー, 風蓮湖, 北海道地質百選, 津波堆積物, はぎとり試料

Keywords: Geology day, Geo-tour, Furen Lake, Hokkaido Remarkable Geosites 100, Tsunami deposits, peel sample

G04-P12

会場:コンベンションホール

時間:5月20日 18:15-19:30

